

臨床研修医活動日記 2026年5月

4月30日(木) 篠原院長による総合講座では、「医療者としてのコミュニケーション能力」をテーマに、初診時の対応や患者との信頼関係構築について学びました。診療の最初の印象や短い雑談の重要性、相槌や視線など非言語的表現の活用、患者目線でのわかりやすい説明と理解確認の大切さが強調されました。また、診療の締めくくりを前向きに行い、安心感を与えることや、言葉遣いへの配慮も重要とされました。雑談力・質問力・伝達力を高め、患者に寄り添う姿勢を実践していく必要性を再認識しました。

5月19日(火) 宮城島副院長による総合講座では、「院内感染対策の基礎と現状」をテーマに、標準予防策の徹底がすべての基本であることを改めて学びました。血液や体液の状態に関わらず、すべてを感染源とみなして対応する姿勢が重要であり、特に手指衛生の徹底、手袋・マスク・ガウンなどPPEの正しい着脱手順を守ることが、医療者自身と患者双方を守る最も確実な方法であると強調されました。院内感染は「医療側の負け」とあるという言葉に胸に、日々の基本動作を疎かにせず、感染させない・感染しない医療者でありたいと強く感じた講義内容でした。

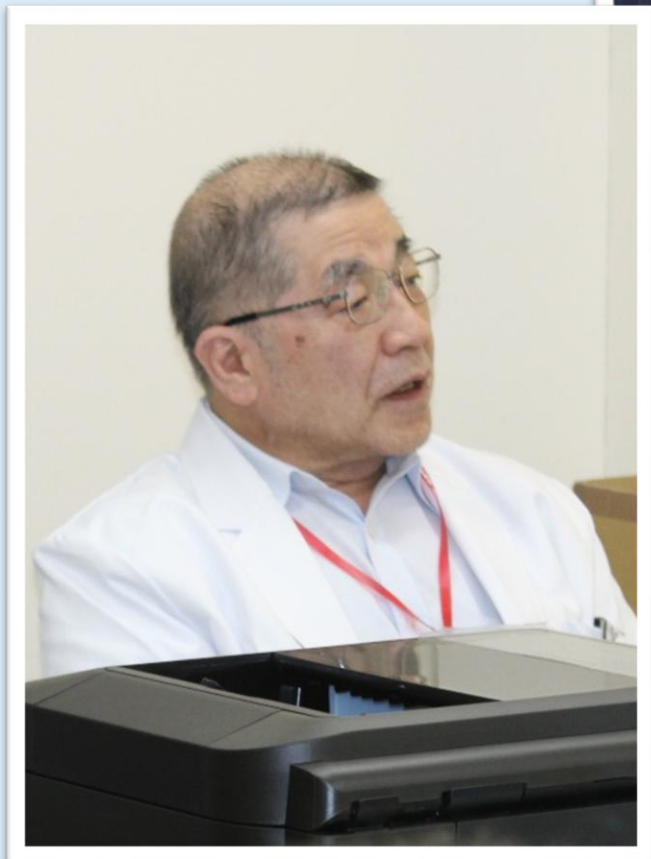
「うなづいてくれるとこちら

も話しやすくなります」

-院長先生の一言で、研修医の

うなづきも自然と大きくなっ

た気が・・・



基本を徹底することの大切さを実感しました。

明日からの診療で実践していきます。

